

蒐集品を通じた伊勢商人たちの交流 ~洗垢会を手がかりに~

江戸時代より伊勢商人の当主らは、商いで築いた財を美術品などの蒐集に費やしました。明治期になると、当主らは洗垢会と称する蒐集品の鑑賞会を催すようになります。今回のコラムでは、近代以降に伊勢商人の当主らが蒐集品を通して行ってきた交流の一端をご紹介します。

洗垢会について、伊勢商人の当主らと親交があった好事家 三村竹清は明治43年(1910)6月3日の日記で次のように記しています。

川喜田氏方にて催されし洗垢会へ行くこの先垢会は津の田端屋 田中治良左衛門 川喜田久太夫 中条氏 松阪の小津清左衛門 可同長谷川次良兵衛 長井九良右衛門の六氏及分家 別家川喜田四郎兵衛 長谷川六良次 竹香小津鹿吉らの諸氏の会合 所謂伊勢の豪家にて江戸店持のミ也 この外二富豪多くあれとそは地面山林なともてる人にて商人ならねは入会せしめさる也 各本家のみ輪番にて会場及午食を受持ち周旋す

つまり、洗垢会の会員は江戸時代より続く江戸(東京)店持ち伊勢商人の本家と分家を中心に構成されており、会場は本家の屋敷で催されました。また、竹清の日記には続けて「此度は川喜田氏之番にて予は客員として招待されし也 犬に関するもの木綿二関するものと題を課し各一人三品以上持参と定む」と記されており、お題に沿った蒐集品を持参するというルールであったことがわかります。この日は川喜田家で催され、犬文様盃【不明】、射和万古菓子器文様【川喜田】、蝦夷風呂敷【川喜田】、「おひげ」と書かれた粗い布地【長谷川】などの蒐集品が持ち寄られました。同年7月2日には小津家において「旅」と「妻」というお題で催され、紀州藩定紋付絵符【長谷川】、福祿寿扇面図 歌川豊国画・式亭三馬賛【川喜田】、火打鎌 鉄石軒吉久作【小津鹿吉】、菅原道真の神号が書かれた掛軸などの蒐集品を各家が出品しています。

こうした品々からも、伊勢商人の蒐集品が多種多様であったことが窺えます。残念ながら、今のところ洗垢会について不明瞭な点が多いのですが、今後、洗垢会の調査が進むにつれ、近代の伊勢商人の交流や蒐集品の動向が明らかになっていくでしょう。(学芸員 扇野)

参考文献

- ・三村竹清日記研究会編「三村竹清日記「不秋草堂日曆」(一)『演劇研究』16(早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、1993年3月)130~133頁。



歴史文化3施設のご案内

【開館時間】

9:00~17:00 (16:30までにご入館ください)

【休館】

水曜日(祝日の場合は翌平日) / 年末・年始

発行 NPO法人松阪歴史文化舎

〒515-0082 松阪市魚町1653

Phone: **0598-21-8600** (事務所)

E-mail info@rekishibunkasha.onmicrosoft.com

HP <https://matsusaka-rekibun.com/>

【連絡先】

- ◆ 旧長谷川治郎兵衛家
Phone: 0598-21-8600
- ◆ 旧小津清左衛門家
Phone: 0598-21-4331
- ◆ 原田二郎旧宅
Phone: 0598-23-1656

